

平成31年度 学校評価実施報告書

学校名（朱雀中学校）

教育目標

実社会に生かせる課題解決力と、人と交わるコミュニケーション力をもち、自分の未来を創造する生徒を育てる

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 「課題解決力上・コミュニケーション力の向上」を目標に、各教科とも話し合い活動を習慣化してきた。全国学力調査や学習確認プログラムの結果は昨年度より全般的に向上しており成果として現れているように感じる。しかしながら、一部の教科については旧態依然とした授業展開が繰り返され、生徒の満足度も低い。各学年・各教科とも生徒にとって魅力的な授業実践になるよう、教科会を定例で実施し、授業について積極的に意見交換していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 行事や取組で来校する度に、生徒や教職員からの挨拶もあり学校全体の雰囲気の良さを感じる。各種アンケート結果を見ても、教職員と生徒・保護者がよい関係であることが見て取れる。1つ気になるのは、生徒アンケートで「自分には良いところがある」という項目に対して相変わらず否定的な回答が多いことである。生徒の様子を見ていても、はつらつと行動しておりもっと自分に自信を持って欲しいと感じる。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年10月25日	学校運営協議会
最終評価	令和2年2月18日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

自ら学習する力・自ら考え表現する力を身につけさせる
 • すべての教育活動の基本は『授業』であるという認識を生徒・教職員が、共に持つこと。その上で、『主体的、対話的で深い学び』をめざした授業づくりに取り組む。生徒が輝き、お互いに信頼感のある授業の実現を目指す。また、家庭学習を定着・充実させるために、各授業は予習・復習を前提として行うことと共通認識し、家庭学習と授業のつながりを重視しながら、学力の向上に繋げる。

具体的な取組

1. よんきゅう縛プロジェクトで作成した「9年間の『学び』」の系統を具現化するために、「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」のテーマのもと、小中合同の授業研究会を実施し、授業改善に取り組む。
2. 学習計画表（「明日を切り拓く」）を作成し、教員と生徒で学習目標と学習内容の共有を図る。また、他教科の学習内容を把握することにより、総合を軸とした「課題解決力とコミュニケーション力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントをすすめる一助とする。
3. 朱雀中ブロックで協力して、家庭での自学自習の習慣をつけるために、家庭学習の具体的な方法などを提示し、授業に繋げる家庭学習の推進を図る。
4. 図書館活用を推進し、読書の推進だけでなく、各教科で図書館を活用した授業をすすめ、生徒自らが課題解決学習に取り組めるよう図っていく。
5. 基礎的な読解力や数学的思考力を基盤にした情報活用能力の育成を目指し、ICT機器の整備と、ICT機器を効果的に活用した学習活動を充実させる。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査の結果
- ・生徒及び保護者アンケートの結果
 - ① 先生の指示や説明は分かりやすい。② 授業の進め方は適切である。
 - ③ 積極的に授業に参加できている。④ 授業を受けるのが楽しみである。

中間評価

各種指標結果

3年生の全国学力・学習状況調査結果では、国語・数学・英語が全国及び全市平均を大きく上回る結果となった。1・2年生対象のジョイントプログラム・学習確認プログラム結果も良好であり、主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりの実践、日々の授業改善の成果が感じられる。

自己評価

分析（成果と課題）

ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査の結果から教科ごとの課題も明らかになってきた。今後も主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりを継続して推進し、成果に結びつけていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査の結果、概ね全教科とも全市平均を大きく上回っている。今後も教科会を充実させ、個々教職員の力量向上を図りたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

生徒対象の授業・生活アンケート

- ・先生の指示や説明は分かりやすい。
- ・授業の進め方は適切である。
- ・積極的に授業に参加できている。
- ・授業を受けるのが楽しみである。

学校関係者評

学校関係者による意見・支援策

- ・参観、行事で来校した際には、生徒達の良い表情が印象的である。しかし、背景に困難を抱えた生徒も存在していると思うので現状に満足しないでさらなる改革を推進してほしい。

（R1・10・25学校運営協議会）

価値	
----	--

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

12月実施の生徒対象の授業・生活アンケート

- 先生の指示や説明は分かりやすい。

学年・教科によって多少の差異があるが、95%以上の生徒が各教科に対して肯定的な回答をした。しかし1・2年生の数学は90% 技術は全学年60%と数値が低い。

- 授業の進め方は適切である。

学年・教科によって多少の差異があるが、80%以上の生徒が各教科に対して肯定的な回答をした。しかし技術は全学年50%程度と数値が低い。

- 積極的に授業に参加できている。

学年・教科によって多少の差異があるが、90%以上の生徒が各教科に対して肯定的な回答をした。しかし3年数学、全学年の技術、2年美術・音楽、全学年の家庭科は90%に達していない。

- 授業を受けるのが楽しみである。

学年・教科によって差異が激しい。ほぼ100%の生徒が肯定的な回答をした教科もある半面、技術は50%程度にとどまっている。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>アンケート結果からも教師の力量が大きく左右していることがわかる。「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」を目指し各種授業研究会も実施しているが、教師によってはまだまだ意識が低く、十分に授業改善に取り組めていない実態も見えてきている。特に、技術に関しては各種指標結果が非常に低く、残念な結果になっている。再任用教諭が担当しており、なかなか授業改善に取り組めていないのも事実であるので、コミュニケーションを欠かさないように、授業に関しても助言をしていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>アンケート結果は、年度末の校内研修会でも共有した。学校目標を達成するためには、生徒の資質・能力を高めることが必要であり、そのためには魅力的でわかる授業展開が不可欠である。教科会や内外の研修会を充実させて教師相互の力量を上げていきたい。</p>

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

思いやりの心を育てるとともに自らを律することのできる生徒とその集団を育てる

具体的な取組

1. 道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」を充実させるとともに、他の様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していく。
2. 「挨拶の指導」を全教職員が意識的に実践し、道徳教育の根幹に据える。
3. 望ましい人間関係の中で、生徒が集団の一員として協働する態度を育成するとともに、場と状況を考え、他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒を育成する。
4. これまでの本校の「人権学習」を、カリキュラム・マネジメントの視点から再構築する。いじめをはじめとする人権侵害を絶対に許さないという強い姿勢を持って、人権文化の確立を図る。
5. 「人のために」行動することの素晴らしさを知り、そして見守り育ててくれている地域との連携をすすめ、地域に貢献できる生徒を育てる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・道徳授業で生徒が記入したワークシート
 - ・公開授業（道徳）の際の保護者からの意見
 - ・生徒アンケートの結果
- ① 道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。 ②友達との約束は守れている。
③ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

中間評価

各種指標結果

休日参観では、今年度も道徳の授業公開を実施した。当日実施した保護者アンケートで「ねらいを明らかにした授業が実践されている」、「発問など授業展開に工夫をしている」という項目に多くの肯定的な回答をいただいた。

自己評価

分析（成果と課題）

自分や仲間を大切にする思いやりの心を育てるために、「道徳の時間」や「人権学習」を下半期も計画的に実践し、思いやりの心をもち自らを律することのできる生徒とその集団の形成を目指したい。

分析を踏まえた取組の改善

道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」に限らず日頃の教科授業、学校行事など教育活動の中で、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していくことを全教職員が意識して取り組んでいく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

生徒対象の授業・生活アンケート

- ・道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。
- ・友達との約束は守れている。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・学校が地域・家庭との連携を深めながら生徒達の内面の成長につなげて欲しい。
(R1.1 O. 25 学校運営協議会)

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>・生徒アンケートの結果</p> <p>① 道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。 1年生95%，2年生93%，3年生97%が肯定的な回答</p> <p>② 友達との約束は守れている。 全学年とも、ほぼ100%が肯定的な回答</p> <p>③ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 全学年とも95%以上が肯定的な回答</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>指標結果の数値は非常に高く、教職員の日常の取組の成果の現れであれば嬉しい。生徒達は、日頃の学校生活を穏やかに過ごし、他者と協働しながら自らの行動を決定しているように感じている。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>道徳の授業はもちろんだが、生徒が集団の一員として協働する態度を育成するとともに、場と状況を考え、他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒を育成する為に今後も「生徒指導の3機能」の理論を全教職員で共有し、実践をつづけていきたい。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>「特別の教科 道徳」として位置付けられた中、「自分の生活を見直す機会となっている」という項目に対してほとんどの生徒が肯定的な回答をしており、教職員が様々な努力をしていることがわかる。（R2年2月18日 学校運営協議会実施）</p>

（3）「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>運動することを通して、仲間と力を合わせて頑張る喜びを知るとともに、最後までやり通す態度を育てる。</p> <p>健康管理の大切さや自分自身の身の安全を守るためにの態度を養う</p>
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none">1. 体育学習および運動部活動、また地域の体育的行事を通して、積極的・主体的に運動に取り組み、生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を育てる。2. 健康管理の大切さを理解して、学校生活を充実させるための望ましい生活習慣を身につけた生徒を育てる。そのためにも毎日の生徒の健康観察をていねいに行う。また、人権学習とも関連させて、自分自身の身を守れる生徒を育てる。3. 社会に潜む危険から自分を守れる行動がとれるなど、自らを律することのできる生徒を育てるために、関連機関等との連携をすすめ、「薬物乱用防止教室」や「非行防止教室」、さらに様々なテーマの「避難訓練」に取り組む。4. 食物アレルギーのある生徒が増加する傾向にある中で、毎日の生活、特に宿泊学習などの校外活動を安心安全なものとするために、教職員が食物アレルギー・アナフィラキシーに対して正しい知識を持つための研修を充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標
生徒及び保護者アンケートの結果
① 学校行事に積極的に参加していますか。 ② 部活動に楽しく意欲的に参加していますか。 ③ 地域の行事に参加している。

中間評価

各種指標結果
9月に開催した体育大会における保護者アンケート結果では「生徒は、楽しく元気いっぱいに活動していた」という項目に対して肯定的な意見がほぼ100%であった。
自己評価
分析 (成果と課題) 学校行事や部活動が単に楽しいものだけで終わらずに、その活動を通して子どもたちにつけたい力を教職員が共有しながら今後も取組を進めたい。
分析を踏まえた取組の改善 保健体育の授業や放課後の部活動はもとより、地域の運動会・社会体育に積極的に参加し、主体的に運動に取り組み生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を継続して育てたい。 若年層の薬物乱用が問題となっているが、関係機関等との連携をすすめ、校内では保健体育の授業や「薬物乱用防止教室」を開催し啓発に努める。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
生徒対象の授業・生活アンケート ・学校行事に積極的に参加していますか。 ・部活動に楽しく意欲的に参加していますか。 ・地域の行事に参加している。
学校関係者評価
学校関係者による意見・支援策 ・9月の体育大会や、10月の区民運動会では多くの生徒が元気に活動している様子が見られた。 地域の社会体育で活躍している生徒も多く、応援したい。(R1.10.25学校運営協議会)

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果
生徒及び保護者アンケートの結果
① 学校行事に積極的に参加していますか。 全学年とも95%以上の生徒が肯定的な回答 ② 部活動に楽しく意欲的に参加していますか。 全学年とも80%以上の生徒が肯定的な回答 ③ 地域の行事に参加している。 全学年とも60%程度の生徒が肯定的な回答
自己評価
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 校内の様々な行事や取組については、教職員が「目的」・「意義」・「生徒に付けたい力」をしっかりと確認したうえで実施している。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>教職員の働き方改革にも伴い、今後一層の行事の精選・見直しが求められている。アンケート結果からもわかるように、行事や取組について生徒は大変熱心に参加しており、心身の健康増進につながっているが、その活動を通して子どもたちにつけたい力を教職員が共有し、今後も取組を進めたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>小学校と違い、本格的に部活動に励んでいる中学校では休日の地域行事に参加することが困難であることは理解できるが、地域とのつながりをもつ大切な機会ととらえて教職員から生徒達にも参加を積極的に促して欲しい。(R2.2. 18 学校運営協議会実施)</p>

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>生徒の自己指導力を高める</p>
	<p>具体的な取組</p> <p>学力向上にも密接な関係のある「生徒の自己指導力を高める」為に、教職員は常に生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。また、あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を設定する。</p>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>生徒及び保護者アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自分にはよいところがあると思う。 ② 学校のルールを守って、学校生活を送っている。 ③ 学校は楽しい。

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>今年度の全国学力調査（3年生）生徒質問紙結果では、「自分には良いところがある」という項目が全国より10ポイント高く、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいですか」という項目でも全国平均より高い意識を持っている。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>夏季校内研修会でも、生徒指導の3機能を効果的に実践する方策が話し合われた。全教職員が、教育活動の中で自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場の設定を意識して取り組んでいる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>生徒の自己指導力を高める為に、教職員は引き続き生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教育活動の中で意識して設定する。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>生徒対象の授業・生活アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にはよいところがあると思う。 ・学校のルールを守って、学校生活を送っている。 ・学校は楽しい。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 地域での様子を見ていても、朱雀の生徒が良い表情で活躍している場面が多い。教職員の働き方改革が言われる中だが、教職員は今後も手を抜くことなく生徒の健全育成に努力を続けて欲しい。(R1.10.25 学校運営協議会実施)

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	生徒及び保護者アンケートの結果
	<ul style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがあると思う。 <p>1年生66%、2年生64%、3年生79%が肯定的な回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校のルールを守って、学校生活を送っている。 <p>全学年とも97%以上が肯定的な回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校は楽しい。 <p>全学年とも90%以上が肯定的な回答</p>
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>客観的に見て、生徒が落ち着いた状態で学校生活を過ごしており、アンケート結果からも規範意識をしっかりと持ちながら学校生活を過ごしていることがわかった。全ての指標項目が100%肯定的な回答になるよう教育実践を続けたい。</p>
分析を踏まえた取組の改善	
	<p>新たな取組を取り入れるのではなく、従来からの取組の目的を再確認しながら、教職員が同じ意識を持って実践していきたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<p>地域で目にする朱雀中学校の生徒は、礼儀正しく表情もよく学校生活を楽しんでいる様子がわかる。アンケート結果からも教職員が丁寧に生徒に接し、生徒自身が自己肯定感を持っているように思う。(R2年2月18日 学校運営協議会実施)</p>

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標
働き方改革に向けて、教職員の意識改革を図ると共に地域・保護者との意識の共有に努める
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 出退勤システムを適切に運用し、教職員の勤務時間縮減と管理を徹底する。 教職員定期健康診断の悉皆受診や要精検者への受診指導を図る。

中間評価

各種指標結果	
今年度の上半期は、昨年度同時期に比べて、超過勤務が1ヶ月あたり80時間を超える教職員の延べ人数が大幅に減少している。	
自己評価	分析（成果と課題）
	平日の電話対応19時終了・部活動ガイドライン遵守など、教職員全員が意識をそろえて取り組んでおり、少しずつ成果がでている。
	分析を踏まえた取組の改善
	行事の精選など、今年度の取組について検証し、ゼロベースで見直していきたい。
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	・ストレスチェック受検率
	・時間外勤務時間の前年度との比較
	学校関係者による意見・支援策
教職員の仕事の中には、生徒の健全育成・保護者や家庭支援の為に超過勤務がやむを得ない場合もあると思う。しかし教職員の心身の健康の為に、取組の縮減などゼロベースで見直す必要がある。(R1.10.25 学校運営協議会)	
最終評価	
自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	ストレスチェックは1名を除き、受検
	時間外勤務時間は、前年度と比較して大幅に減少している
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	時間外勤務時間については、昨年度と比較して確実に減少している。しかし、教職員が日常の業務を早く切り上げて、時間外勤務を減らせば良い という単純な問題ではなく、行事や取組を見直し教職員の意識を変えることが必要だと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善
	3学年で取り組んでいる、総合学習のプラットホームをどの教職員も活用できるようにして、取組に費やす準備時間を大幅に削減していきたい。
	学校関係者による意見・支援策
以前は夜遅くまで灯りのついていた職員室が、最近は消えてることも多くなり教職員の働き方改革に向けて努力をしていることがよくわかる。 (R2.2.18 学校運営協議会)	